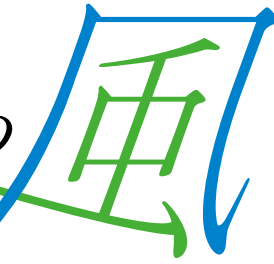


気仙沼への

第3号
2009.5



作：尾形 将『故郷（気仙沼湾）』（2008年）

発行：地域活性化研究会 気仙沼ビューロー
東京都台東区東上野6-1-1 (社) 漁業信用基金中央会内 地域活性化研究会
TEL: 03-3841-4035 E-mail: kesenumabureau@yahoo.co.jp

気仙沼への風（第2号）のダイジェストをどうぞ

日出 英輔

前号（第2号）では、気仙沼出身で東京圏あるいは仙台圏に住んでいる者が、それぞれ感じている気仙沼の魅力を述べました。ふるさとの方々に気仙沼の魅力を語りかけて同じ思いを持ち合うこと、さらには現地に住んでいる方々には気がつかない魅力をお伝えすることを「願い」としました。

本号は、主として前号の寄稿者以外の参加者から寄稿していただきましたが、これをご覧いただく前に以下の第2号のダイジェストをどうぞ。

まず第一に、気仙沼の魅力としてあげられたスポットは、魚市場、お魚いちば、おしめさん（浮見堂）、小田の浜、十八鳴浜、気仙沼湾（安波山、鶴が浦、亀山山頂から見た風景）、小鯖地区（船から見た風景）、陣山、大理石海岸、徳仙丈能楽堂、龍舞崎（以上五十音順）でした。

第二に、地元の方にはあれえといわれるかもしれませんが、気仙沼の星空、笹が陣から南ヶ丘界隈の風景等も、外部の人には魅力的に見えるかもしれないとの記述がありました。

さらに、ふるさとへのお薦めとして、亀山山頂でのサンセットと星空を眺める観光コース、寒い季節でも上げられるようなロープウェイの整備、殻付き牡蠣と冷えたワインを提供する施設、自転車での大島巡り、船頭釣り、広田湾沖辺りまでのクルージング、全旅館での「あざら」や「どんこ汁」の提供、市場の屋外見学施設やシャークミュージアムでの市場関係者等による説明付きご案内、フカヒレ加工、牡蠣殻剥き、鰹のおろし方体験コース等もあげられました。

いかがでしたか。

気仙沼の魅力はまだあります。

では以下の寄稿文へどうぞ。

（ひので・えいすけ）昭和16（1941）年生まれ。前参議院議員。平成17年、地域活性化研究会を立ち上げ、全国の農林水産業・食品産業を中心とした地域おこしの支援をおこなっている。

郷土愛の棚卸し

郷土愛の視点

尾形 将

初めまして。新メンバーの尾形 将(まさし)と申します。

私は昭和 20 年に安波山麓の太田の街で生まれ、気高を卒業して故郷を離れた昭和 39 年迄の 19 年間、出船入船数多く活気に溢れた全盛期の港町気仙沼で多感に育ちました。

それから既に 45 年の歳月が経過。しかしこの間片時も故郷気仙沼を忘れた事がなく、むしろ遠く離れているからこそ故郷への想いを凝縮させ、気仙沼に関する全てを美化してしまうので、今でも女房や娘達に笑われることが度々です。

そんな私に 2 月中旬、創立メンバーの畠山朔男さんから会へ参加のお誘いがありました。

会の主旨に賛同し参加の意向を即答しましたが、直後から、はたして自分にその資格や能力が有るかと自問自答しています。

そこで、思い切ってここで日頃の私自身の行動の中に『気仙沼への郷土愛』がどれ程存在するかを棚卸してみることにしました。

①年に一度は必ず故郷気仙沼へ帰省

→墓参、親戚回り、そしてお気に入りスポットの散策。又郷土食等も楽しめます。

帰省の度に自分自身に活力が充填されて元気倍増です。(リフレッシュ効果)

②気仙沼の海産物は新鮮で美味しく種類豊富で日本一と確信しており、昔から自宅用のみならず各種贈答用にも必ずワカメ、秋刀魚、柳かれい、かまぼこ等の気仙沼産品を利用

→お中元、お歳暮、お返し等の送り先の皆さんから例外無く『ヘルシーで美味しい!』と喜ばれ、更に多くのケースで口コミによる拡販へと繋がっています。(気仙沼産品 PR 拡販効果)

③気仙沼の景色は海山川の自然豊富、風光明媚で日本一と確信しており、これを風景画に描いて東京での各種展覧会に出品

→ 56 才の時に思い立って絵画を習い始め、帰省の都度お気に入りスポットを散策して描いた気仙沼の風景画(油絵やパステル画)を銀座や上野での個展や各種展覧会に度々出品し多くの方々から好評を博しています。(観光 PR 効果)

④気仙沼出身の舞踊家 花柳寿々菊師匠(小中学校同級生)や洋画家 鮎貝周三画伯(高校先輩)の高邁な芸術活動を応援

→私自身の絵画制作活動にとっても大きな刺激となっています。(芸術振興効果)

以上がささやかではありますが、現在思い付く限りの私なりの『気仙沼への郷土愛』です。

これからも引き続き気仙沼を愛し、微力ながらお役に立てるよう、具体的な行動を質量共に拡充して実行してゆきたいと思います。故郷への提案、提言もそんな目標の一つです。

今回は絵を描く私の目から見た気仙沼の魅力(魅力ある景色やスポット)について感想を述べたいと思います。

(おがた・まさし) 昭和 20 (1945) 年生まれ。気仙沼の風景画などを描き、2008 年上野の森美術館主催「アトリエ展」入選。銀座、上野の画廊で個展を開催。

歴史的背景から気仙沼を考える

歴史探求の視点

畠山 信彦

人としての存在意義や生きがいは、自分以外の人達から自分の存在がどのような事であれ、必要とされているかを感じた時だと最近、思うようになった。

又、歴史を探究し始めたのも、自分の存在のルーツを調べたいという理由からなのだろう。

気仙沼という地域を考えた場合、日本国から見ての位置づけや要求されていること、必要とされている事は何だろうと考えてみてはどうかと思う。果して気仙沼は今、必要とされているのだろうか？まず、歴史的背景から考えてみたい。

本吉町の北部にある大谷金山や鹿折金山は、採掘の歴史は平安時代中期にまでさかのぼるとされ、京の都を動かした奥州藤原氏の黄金文化を支えたとも言われている。これらの鉱山の最盛期は平安時代末期頃で、「平泉の金色堂」は我が郷土の金があったからと言っても過言ではないだろう。

又これらの精錬に従事したのは、主に欧米文化を吸収したキリスト教徒たちで「異教の禁」では大弾圧を受け、多くの殉教者を出したところでもある。本吉・登米市東和地区・岩手県藤沢町は隠れキリシタンの里が近くにあるのはこの理由からだ。

特に鹿折金山では、明治時代末期、重さ 2.25 kg、純度約 83 % の金鉱石が 1904 年（明治 37）金鉱石品位で世界記録となる「モンスター・ゴールド」と呼ばれる金鉱石が採掘された。日露戦争時に米国・英国が味方し、高橋是清が戦費を調達でき勝利したのも、この金塊が

発見されたお陰であり「黄金の国・ジパング」を支えたのは、この地なのである。

江戸時代以降の仙台藩の有力な財源として、その後の地域の経済を支える産業として戦前まで掘り続けられていたが、資源の枯渇などにより昭和に入り廃鉱となり、その歴史に幕を引くことになる。

更に伊達・仙台藩では三陸海岸を裏浜として、浜方百姓の村々から海上高（うんじょうだか）という漁場使用料を徴収した。裏浜では藩に上納した磯物（アワビ・ナマコ）の残りを市場に出荷したり、俵物（たわらもの）の請負商人に売るなどして換金したとある。俵物は長崎貿易で清に輸出されていたらしい。

気仙沼港は、内陸の登米郡（現・登米市）や東磐井郡（現・一関市）の特産物と沿岸漁村の俵物や海産物を江戸へ運ぶ回船によって発展したとあり、航海技術が養われたのだろう。

現在でも、三陸産のフカヒレやナマコなどの海産物は、中国市場で、高級食材として珍重され、現在でも変わらぬ歴史が脈々と続いている。

その歴史的背景より沿岸漁業・養殖から沖合・遠洋漁業と発展し、奇跡と言われた昭和成長期の日本国の食糧供給を支え、現在に至っている。

以上歴史的に見ても、古代の時代から気仙沼地区の位置付けは日本国にとって大きく、重要な役割を果たしてきたのだ。

気仙沼人は、もっと歴史的にも郷土の誇りを持ち、これからの日本国の何を担うことができるかを考え、先人に負けないように存在意義を輝かさなければならないと思う。

（はたけやま・のぶひこ） 仙台市在住。

『価値観…』

帰省の視点

小野寺 徹也

私は年に2回、お正月とみなと祭りの時期に『気仙沼』に帰省する事にしている。

18歳の時に横浜に出てきてもう26年、気仙沼で育った時間より横浜にいる時間の方が遥かに長くなってしまった。

その間に結婚して、妻、子供3人、ローンは残っているけれど一戸建ても購入し、最近ではミニチュアダックスフント1匹も増え忙しい生活を送っている。

自分の育った環境は、自分の価値観の基準となっている。

私の父はいわゆる遠洋漁業の仕事に携わっていて、半年に1度、長いときには年に1度帰港するか生活を続けていた。

私は幼い頃父と遊んだ記憶があまりなく、実際には母子家庭の様な生活で、父は『たまにいっぱいお金を持って帰って来る人』みたいな感じだった。

一緒にお酒を飲める年齢になってその事を話すと、「そんな寂しいこと言うなよ。」と言ってビールを一気に飲み干してしまった。

そんな父だから幼い頃から「陸（おか）の仕事に就きなさい。愛する人と離れて暮らすのは大変つらいぞ。」と何度も言い聞かされた。

その代償であろうが、鮪が高く売れた時は歩合でお金が貰え、35年以上前ではあるが神棚に300万円位を乗せて家族で拝んだ事があった。

そんな父のお陰で今の私が有り、神棚に300万円を乗せて拝む事はないけれども、陸（おか）の仕事に就き愛する家族と離れずに生活出来ている。

帰省した時、自分が育った頃の価値観と、今の誤っているだろう自分の価値観を見直す事ができる。

あの頃、パチンコなんてやってただろうか、食べ物を無駄にしたり飲み歩いたりしてただろうか。

今していることが本当に正しくて、本当に必要な事だろうかと・・・

そんな訳で私は、年に2回『気仙沼』に帰省する事にしている。

(おのでら・てつや) 昭和39(1964)年生まれ。横浜市在住。

私は気仙沼が好きだ（1）

カメラ愛好者の視点

千葉 一宏

私は気高を卒業して、上京し今年で50年がすぎた。

中学校時代の同年生が毎年30人位集まって、わいわいがやがや四方山話に花を咲かせる、

もう27年も続いている。そんな時必ず出るのが気仙沼のここがいいとか、あそこのこんなところを見習えばもっと良くなるとかの話である。

小学校の図工の時間に『風景』がテーマにな

るとクラスの多くの生徒が同じ風景を描いたものだ、それはふたコブ山を描いてその下にSの字を伸ばした様な線を書けば出来上がりの絵である、校庭から見た大島の亀山とバダ崎の防波堤の絵である、目をつぶってでも描けるしそれが何処であるか気仙沼の人なら誰でも分かる絵である、角度は違うが安波山からも同じ様な風景だ、私は安波山の麓で育った、この風景を見るとホットする、気仙沼を紹介する絵葉書の代表的な写真はこの風景だったと思う。今は防波堤がなくなってその分陸地が広くなり夜景がキレイで、最近の安波山からの夜景は屈指のものだと聞く。

(大泉書店発行 Reflex camera 一眼レフを楽しもう 2002年3月29日、旅と夜景の撮り方、気仙沼港を撮るに掲載)

安波山に道路ができた、駐車場があると行ってもそれで対応が充分だろうか。

話は替わるが山梨県に増穂町と言う人口約13,000人のゆず農家が多い町がある、初日の出には富士山の頂上から太陽が昇るダイヤモンド富士が見られる事で知られ、全国からカメラマンが自家用車やバスで大挙して押し寄せるそうである、以前はカメラマンがフォトスポットを求めて畑の中まで入り込み、農家から行政への苦情が絶えなかったそうであるが、町がこの恵まれた地の利を生かし、バスが通れるように道路を整備し、何台ものバスや自家用車が無料で駐車出来るスペースを確保し、道の片側にフォトスポットを作ったら冬期だけではなく1年中カメラマンが絶景を求めて来る様になり駐車場付近には食事処やみやげ店が出来て大賑わいだそうである、今では畑に入り込む人もなくなり、地元農家は生産だけでなく直売までして『ゆずの里』として発展していると聞く。

話は戻るが気仙沼には安波山の夜景や巨釜

の初日の出、その他多くの絶景ポイントがある、又、働く魚市場、伝統芸能や漁船のパフォーマンス満載の港祭り等フォトチャンス(地の利)も多い、あとはそれがいつ見頃か(天の時)、地元としてどのようなおもてなしが出来るかそして受け入れの心構え(人の和)は充分か等、例えば月別フォトスポット、アクセス、駐車スペースやトイレ位置、見頃時間、その時期の旬の食材や旬の料理を提供出来る食事処や宿泊場所(ホテル、旅館、民宿)、フォトスポットへの気仙沼ラーメン等の出前が出来るとか屋台の有無、それらの情報を記載したパンフレットを受け取れる市の案内窓口等を取りまとめて旅行会社や全国のカメラマングループに発信して行けば、先が楽しみである、最近では定年後のカメラマンが相当増えており、趣味のグループで暑さ寒さに関係なくフォトスポットを求めて出かけるようだ。

勿論撮った写真を発表する機会、年度フォトコンテストの企画が最も重要、(山梨県富士河口湖町河口湖美術館の富士山写真大賞展を参考)気仙沼の絶景や祭事や産業の写真がカメラマンと言う観光客が来る事によって勝手に各地に広がって行く、それが何よりの気仙沼のPRになり、次に繋がる基になると思う。

カメラマンだけではなく、釣り目的の方には季節の釣りスポット案内とか、マラソンに参加の観光客等大会参加形の企画が今後の鍵だ。オフシーズンを少なくする知恵が必要と思う。工夫しだいでは大きな何かが期待出来るような感じがする。

大島の風になる日

市民ランナーの視点

小山 利英子

大島で開催された「第27回気仙沼つばきマラソン」に出場しました。

今年は「これまでで一番」というほどのお天気に恵まれ、1655人が大島を力走。コースは上り下りの起伏にとんだタフなコース。ここを遊び場にする大島のお子さんには知らぬ間に身体が鍛えられましょね。

ちょうど桜は満開、つばきも満開、水仙、菜の花は美しく、樹々は緑の葉を付け、気仙沼湾は青く美しい。実にすばらしいコースを走らせて頂きました。沿道の声援に助けられて3年連続の10km完走です。

ハーフ男子の優勝は気仙沼出身／菊池健選手（宮城・多賀城自衛隊）が3年連続4度目の優勝に輝くという嬉しい記録。

出場者には「まぐろのかぶと焼」や「わかめ汁」が無料で配られるなど、おもてなしは最高。その他に「ゆず湯やホットコーヒー」の無料サービスまであります。全てボランティアで行われているのですから、頭が下がります。

いまや空前のマラソンブーム。東京では若い女性ランナーが激増しています。それでも女性の割合はまだ10%程度でしょうか。気仙沼はどうでしょう？

出場者の地域を見てみますと、地元開催にも関わらず気仙沼が少ないのは寂しい気がします。特に女性ランナーが増えることを祈りつつ、この大会には他の地域から大勢、お越しいただいているので、それはそれで嬉しいものです。

さて、良いことづくめの気仙沼つばきマラソンに、もう一工夫出来ないかと考えてみました。

【その1】嬉しい音の応援

大会前に地元の「打囃子」の演奏がありまし

た。これを聞きますとモチベーションは一段とアップ。選手にとって嬉しい響きです。

せっかくですから、スタートとゴール付近（小学校近く）で太鼓を演奏していただけないでしょうか。スタートでは「行くぞー」という気分になるし、ゴール間際にそれが聴こえると「あと少し」と頑張ることが出来ます。

今回、あるお宅の前で小学生のお姉ちゃんが太鼓を叩き、妹さんが笛を吹いて応援してくれました。その2人の演奏に助けられ、足どりが軽くなります。ランナーにとって声や音の応援はとても嬉しいもの。ある大会では、ラジカセでロッキーのテーマを流し続ける方がいます。東京マラソンでは、バンドや太鼓など演奏者を公募し、鳴りもので盛り上げます。それはランナーに良き思い出となりましょう。

【その2】種目の工夫

意外にも、（大島以外の）気仙沼の盛り上がりが少ない気がします。そこで地元が盛り上がる方法を考えてみました。ある大会で「親子で走る種目」があります。幼稚園児や小学校低学年と親子で走る種目は、孫の姿を見るためにおじいちゃん、おばあちゃんが駆けつけ、大盛り上がりです。市民マラソン大会はお祭りの一つでもあります。早さを競うだけではない種目の工夫があると様々な方が参加出来るかと思えます。「ウォーク（歩き）」という種目もあってもいいと思えます。

【その3】ビジネスチャンス？

関東の大会に出ますと、最寄り駅を下車した時から「ビールの優待券」や「銭湯の割引券」など様々なものが配られ、お店の勧誘に余念がありません。健康ランドは専用バスで客

を誘導します。つばきマラソンの今年の出場者は1655名。そのうち気仙沼以外からお越しの方が圧倒的に多いですから、風呂で汗を流してビールを飲んで帰りたい人も多いはず。お店にお越しいただくチャンスでもあります。ところがそういった勧誘をいっさい受けません。少し勧誘してみても良い気がしますが、いかがでしょうか？

さて、私は頂いたリフトの半額券で亀山に参りました。亀山から見る景色は絶景。大島にきた甲斐があるというものです。その後は大島のお店で「うにご飯」を頂きました。これが楽しみで行くようなものですから。

今年の完走者の最高齢は85歳。来年まで練習を積んで走ってみませんか？

(おやま・リエこ) 昭和36年生まれ。テレパス(株)代表取締役。WEBアプリケーション、システム開発を手がける。

地域活性化研究会 気仙沼ビューロー支援者

当団体をご支援いただく方々をご紹介します。(2009年1月現在 / 順不同 / 敬称略)

- 臼井 賢志 気仙沼商工会議所 会頭
- 斉藤 徹 気仙沼市観光コンベンション協会 会長
- 足利 健一郎 (株)足利本店 代表取締役社長
- 川村 賢壽 (株)かわむら 代表取締役社長
- 亀谷 寿朗 福德漁業(株) 代表取締役社長
- 菅野 卓夫 (株)気仙沼青果物流通市場 代表取締役社長
- 佐藤 雄二 (株)カネダイ 代表取締役専務
- 和賀井 達夫 気仙沼ほてい(株) 代表取締役副社長
- 内海 哲郎 (有)菓子舗うつみ 代表取締役社長
- 馬場 国昭 (有)からくわクリーン 代表取締役

地域活性化研究会 気仙沼ビューローについて

当団体は気仙沼地方と縁を持つ者たちが、それぞれが得意とする分野からの提言や活動を行い、気仙沼地方の発展に寄与できることを目指し、平成20年11月に設立されました。今後、テーマを絞った提案や勉強会を行う予定ですが、まだ設立されたばかりで夢は膨らむばかりです。気仙沼地方が末永く発展できるよう、外部からサポートできる最大限の事業をすすめていきたい、そんな風に考えております。

なお、参加資格はありません。気仙沼へ思い入れを持つ方であればどなたでも参加になれますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【参加メンバー】(2009年4月20日現在 ☆印：新メンバー)

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| ☆ 小野 寺 徹 也 | 尾 形 将 | 大 森 郁 夫 | 川 村 浩 |
| ☆ 畠 山 信 彦 | 貝 塚 文 一 郎 | 村 上 洽 視 | 畠 山 明 |
| 中 村 勝 子 | 日 出 英 輔 | 坂 井 素 美 | 岩 手 裕 美 子 |
| 佐 藤 晴 男 | 畠 山 朔 男 | 菅 原 洋 道 | 佐 藤 恭 子 |
| 千 葉 一 宏 | 佐 藤 則 好 | 高 濱 悟 | 武 山 健 自 |
| 佐 々 木 栄 作 | 近 藤 章 | 小 山 利 英 子 | |